

## カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

### ニュースレター（第23回）

#### JICA 本部から運営指導調査団が来緬！

現在、CREATE で開発した小学校 1 年生用の教科書の承認を巡る問題が明らかになり、小学校 2 年生用の教科書開発も始められないという状況が続いています。事実上、CREATE の活動は停滞しており、当初の計画通りに進められないばかりか、大幅な遅延が予想される状況になってきています。

この現状を何とか克服するために、先日 9 月 12 日～16 日の 5 日間の日程で、JICA 本部から運営指導調査団がミャンマー現地に派遣されました。調査団メンバーは、石原伸一氏（人間開発部次長）と徳田由美氏（人間開発部基礎教育グループ・基礎教育第一チーム主任調査役/課長補佐）の二名で、来緬中、CREATE の専門家や CDT はもちろん、ネピドーにて教育大臣や教育省の関係者と面談され、現状に対する対処方針などを話し合われました。教育大臣との面談の結果をまとめると以下ようになります。



- ① 教科書の承認は、今後設置される国家教育政策機関 (National Education Policy Commission: NEPC) とその下部組織となる国家教育課程委員会 (National Curriculum Committee: NCC) にあり、教育省にはその権限はない
- ② 仮に NEPC 及び NCC により小学校 1 年生用の教科書が今年の 11 月中に承認されない場合は、2017 年 6 月の導入を延期し、2018 年 6 月に小学校 1 年生と 2 年生の二学年の教科書を一緒に導入する
- ③ 2015 年 5 月に教育省によって承認された「カリキュラム・フレームワーク」についても NEPC 及び NCC によって承認されなければならない

以上の議論を受けて、運営指導調査団も「NEPC 及び NCC が設立されるまで CREATE としては待つしかない」という結論に達しました。そして、上記②のようになった場合には、改めて CREATE の活動内容とその計画予定を見直すということになりました。

#### NEPC、ようやく設立！本格的活動が開始されるか？！

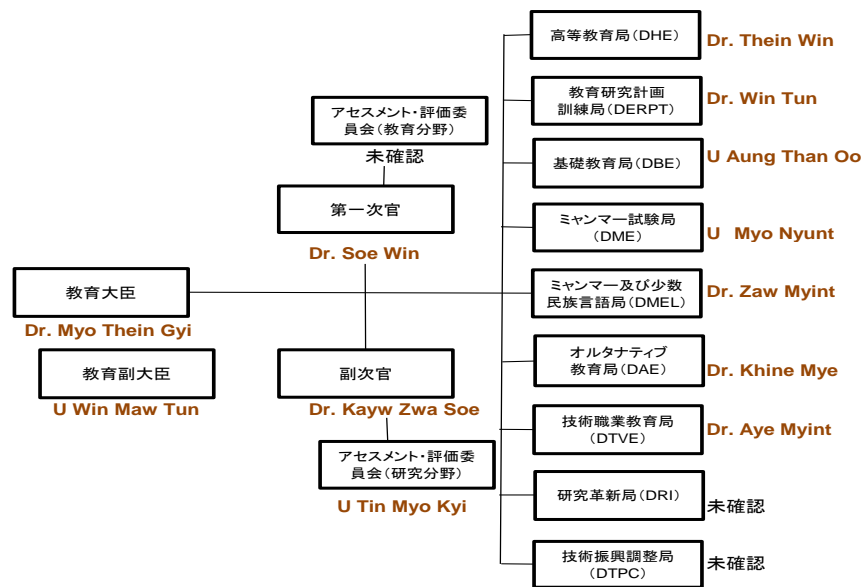
JICA 本部からの運営指導調査団が帰国されたまさにその日 (9 月 16 日) に、国家教育政策機関 (NEPC) が大統領の発議として両院総会にかけられ承認された旨の一報がネピドーから入りました。後続の情報によれば、NEPC のメンバーは 21 名から成り、その中には前教育副大臣、前科学技術省副大臣のほか、これまで CREATE のカウンターパートとして一緒に業務を行ってきたカイン・ミエ氏 (Dr. Khine Mye) の名前も挙がっています。また、21 名のメンバーの構成は、その多くが教育省の職員、大学の学長・学部長クラスの方々となっています。NEPC のメンバー中、教科書の承認のために CREATE が最も注目しているカリキュラム分野の専門家は二名おられ、テイン・ルイン氏 (Dr. Thein Lwin、元ヤンゴン教育大学教授) とテッ・マウン氏 (U Thet Maung、元教育省職員) となっています。

#### 再編後の教育省の組織（現状）

2014 年 5 月に CREATE が開始されて以来、これまでに二度、教育省の大幅な再編が行われました。一回目は 2015 年 4 月で、この再編は前大統領のテインセイン氏の主導による民主化に向けた政府改革の一環として行われました。この再編によって、CREATE のカウンターパートが大きく変更になりま

した。具体的には、それまでの教育計画訓練局 (Department of Educational Planning and Training: DEPT) に代わって、新設のミャンマー教育研究局 (Department of Myanmar Education Research: DMER) と教師教育訓練局 (Department of Teacher Education and Training: DTET)、さらに基礎教育局 (Department of Basic Education: DBE) の三つになったのです。

そして、二回目の再編が 2016 年 4 月から始まりました。この再編は NLD 新政権による国家体制の新しい構築を目指したものです。ティンチョー大統領とアウンサンスーチー国家顧問により、これまで乱立していた 31 の省庁を廃統合し 21 に削減しました。教育省も科学技術省を統合しました。現在の教育省は以下のように、CREATE のカウンターパートは教育研究計画訓練局 (Department of Educational Research, Planning and Training: DERPT)、基礎教育局 (DBE)、高等教育局 (Department of Higher Education: DHE) の三局となります。



新生教育省の組織図と局長

### ミャンマーの歴史教育

8月25日に出版した拙著では、ミャンマーの中学校及び高等学校で現在使用されている歴史教科書の内容を翻訳し、詳細な注釈を付けた上で紹介すると同時に、教科書では触れられていない約50年間続いた軍政時代の状況および2011年からのテインセイン政権とそれに続く2016年からのNLD政権による本格的な民主化に向けた国政改革についても触れています。

現行の歴史教科書は他の教科と同様、1999年に軍事政権時代に編纂されたもので、それ以来、現在まで17年間ほとんど内容は変わっていません。それ故、現在、働き盛りで、この国の社会経済を担っている20代、30代の若者は一人残らずこの教科書を使って自国の歴史を学習してきており、軍事政権が意図した歴史観を育んできたと言えます。例えば、大東亜戦争において日本はミャンマーに侵攻を試みましたが、ミャンマー人はその司令先でパナコクに置かれた日本軍の「南機関」とその兵士に対しては、「ミャンマーを英国植民地軍から解放してくれた恩人」と信じて疑いません。これは同教科書に、南機関の鈴木敬司大佐を敬う記述があるからです。

あまり知られてはいませんが、ミャンマーと日本は歴史的にとっても深い関係があります。こうした歴史を知ること、ミャンマー人の心にある歴史観や考え方が多少なりとも理解できるのではないかと考えています。

文責: 田中義隆 (カリキュラム・チームリーダー)  
編集: 宮原光 (プロジェクト・コーディネーター)